

神吉研究室調査旅行 in Seoul

2016.9.26 - 9.28



CONTENTS

はじめに	3
旅程	4
DAY1	8
京東教会 / Kyungdong Presbyterian Church	
東大門デザインプラザ / DongDaemun Design Plaza	
清溪川 / Cheong Gye Cheon	
東大門市場 / DongDaemun Marketplace	
DAY2	18
梨花洞壁画村 / Ihwa Mural Village	
昌徳宮 / Changdeokgung	
北村韓屋村 / Bukchon Hanok Village	
仁寺洞とその周辺 / Insa-dong and its neighbours	
DAY3	27
松坡区 / Songpa District	28
韓国訪問を振り返って	30

はじめに

昨年度までゼミ旅行まとめるものはなかったが、やはりゼミ旅行を通して学んだこと、感じたことを文章に起こし、まとめることの必要性を感じたため、今年度より作成することにした。

今年度は韓国に行った。

1日目は京東教会・東大門デザインプラザを見学し広蔵市場で夕食をとった。初めてのザハ建築はまさに圧巻の一言であった、と同時に幻になって消えた新国立競技場を見たかった気持ちがより強くなった。

2日目は町の中にアート作品が点在する壁画村、韓国のかつての王宮・昌徳宮、韓国の伝統的家屋である韓屋を見学した。壁画村のアート作品に反抗する住人の戦いの跡が見受けられ、必ずしも住人には受け入れられてないことも学んだ。

3日目は羨ましいことに、デザインプラザで4回生の卒業設計を行った後、韓国の高層アパート群を見学に行った。空が曇っていたからか、摩天楼のようなかっこよさに見とれた。



全体を通して中々の過密スケジュールで、かつ2日目は生憎の雨で天候には恵まれなかったが、とても充実したゼミ旅行になったのではないと思う。と、いうのも訪問先である京畿大学のユン先生にソウルを案内して頂き、韓屋の詳しい説明・裏話など普段聴くことのできないお話をしてくださったためだ。ユン先生には心から感謝している。

「学生の自主性」によれば来年度以降もゼミ旅行まとめを作る必要はまったくないと思うが、できれば来年度以降も続けていき、読み物としておもしろいものを作っていってもらえたら嬉しい。

(かなまる・げんた)

神吉研究室調査旅行
in Seoul

DAY 1

(9/26)

—旅程—

10:50 関西国際空港発

12:45 金浦国際空港着

14:30 ホテル着

尹孝鎮先生と合流

15:40 京東教会

16:00 東大門デザインプラザ

17:00 清溪川

17:20 東大門市場

夕食

18:30 広蔵市場

19:00 ホテル着

以降自由行動



神吉研究室調査旅行

in Seoul

DAY 2

(9/27)

—旅程—

08:30 ホテル発

09:30 梨花洞壁画村

11:30 昌徳宮

14:00 尹孝鎮先生と合流

14:30 北村韓屋村

16:50 韓国現代美術館

17:50 仁寺洞

19:00 夕食

以降自由行動



神吉研究室調査旅行

in Seoul

DAY 3

(9/28)

—旅程—

07:30 ホテル発

08:00 卒業設計エスキース

(東大門デザインプラザ)

10:50 松坡区

14:30 卒業設計エスキース

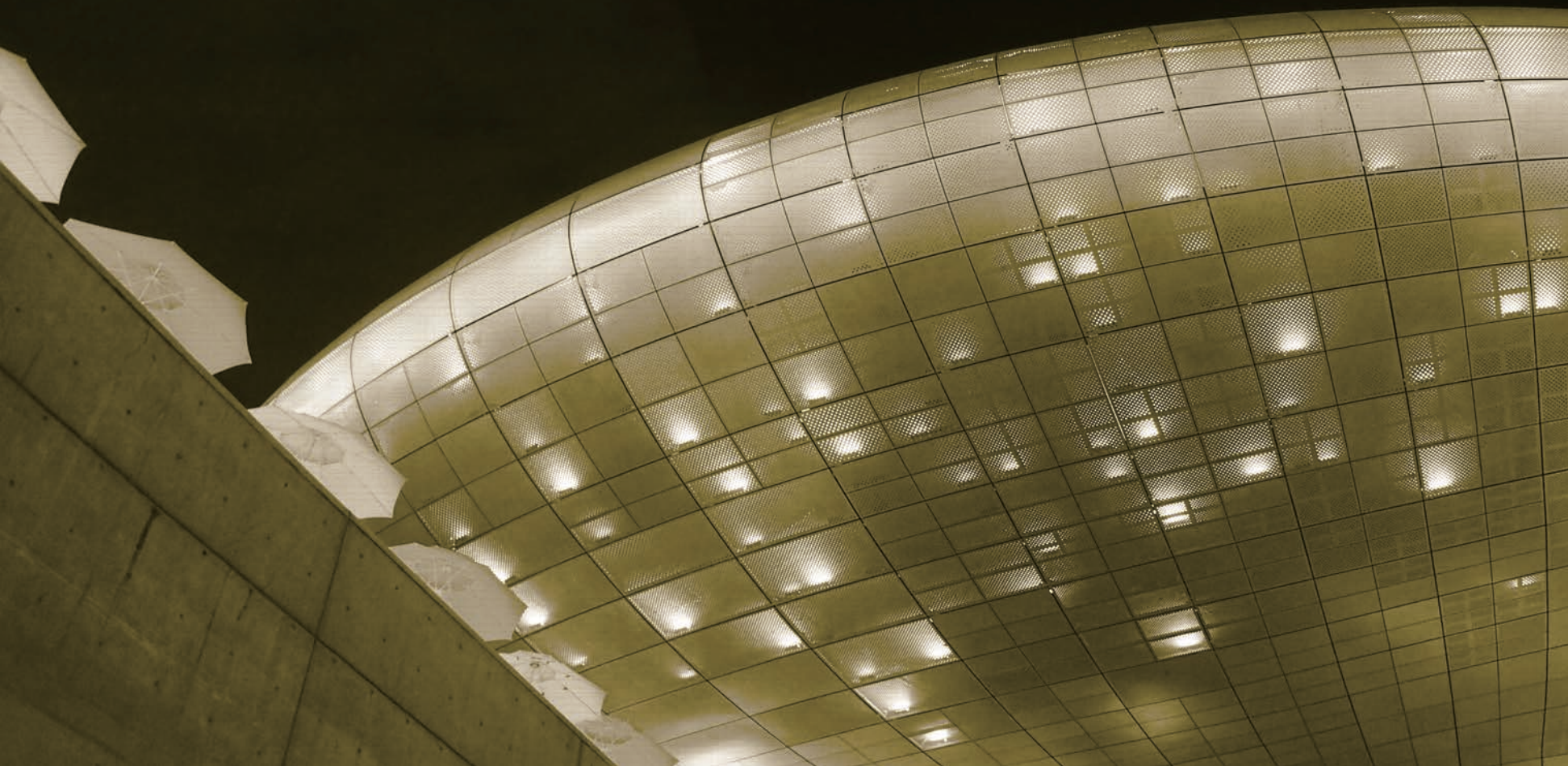
(仁川国際空港)

17:00 仁川国際空港発

18:50 関西国際空港着



DAY1



Kyungdong Presbyterian Church 京 東 教 会

DATA

Keywords : 教会建築、煉瓦、コンクリート

設計 : 金寿根

Since : 1980

Address : ソウル特別市 中区 獎忠洞 1 街



韓国の建築界の巨匠、金寿根（キム・スグン）先生の建てた教会である。この京東教会は 1980 年の作品で、1986 年に没した金先生の晩年の作品といえる。レンガという素材感を前面に押し出した建築は、その壁面の多くが緑化されていることも相まって、周囲の建築とは明らかに異なる様相を呈していた。

内部は二つのホールで構成されている。一つはメインとなるパイプオルガンのある大ホール、もう一つは講演や牧師の説教などを行う中規模のホールである。この二つのホール

は入り口が異なっており、もう片方に入るためには一度外に出なくてはならない。

大ホールに入ってまず一番に驚くのは、梁型を見せつけるような RC の大フレームだろう。門の字型の構造が幾重にも重なって、中央の十字架まで続いている。十字架の上には開口があり、そこから薄暗い空間に優しく自然光が降り注いでいた。教会の方のご厚意で照明もつけてくださったのだが、照明が無いほうがきれいだっただろうな、と個人的には思う。

フレームの合間を縫うように二階席があり、ポケットのような空間は照明と赤いじゅうたんが敷いてある。スケール感と明るさが変わり、少し毛色の違う空間となっていた。後で調べたところによると、このフレームとポケットが音響的にもよい効果を与えているそうだ。ぜひ一度パイプオルガンの音色を生で聴いてみたかった。

またこのホール、一見正面上部の大きな開口以外は暗く閉じられた空間に見えるのだが、ところどころに自然光を取り入れるための小さな開

口があげられており、微量ながら（時に壁面緑化の影響で隠されてはいたが）光が降り注いでいる。この日は曇天だったこともあり、開口の効果が感じられなかったことが残念でならない。

最後に教会を取り巻く道をぐるっと一周して後にした。外壁に用いられるレンガはすべて少しずつ欠けており、日が当たってレンガひとつひとつが独特の陰影を持っていることが印象的だった。

（やまもと・ゆうし）

Photo Collections



正面
田中



横
加登



全体
池永



ステンドグラス
伊藤



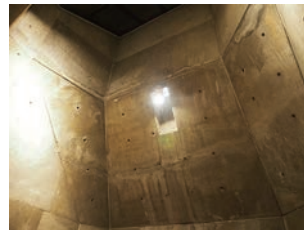
耐力壁が奥に奥に誘う
清山



地下まで光を落とす階段の納まり
山口



ごつごつしたレンガ
金丸



荒々しいコンクリートの表情
久保田



道の先には
吹抜



タイトル上階からの眺め
上澤



失われた文明の遺物の様な
伊藤



青と緑と茶色と きれいな
潮田



可愛い彫刻
角谷



レンガのでっぱり
作田



水平にのびるパイプオルガン
原

DongDaemun Design Plaza 東大門デザインプラザ

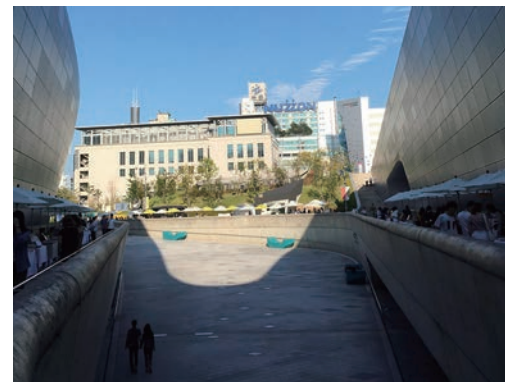
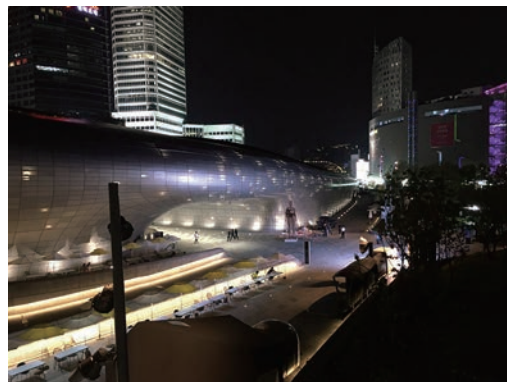
DATA

Keywords : 複合施設、遺跡、ランドスケープ

設計 : ザハ・ハディド

Since : 2014

Address : ソウル特別市 中区 乙支路 7 街 2-1



ホテルを出発し、徒歩10分。着いたばかりで皆周りの雰囲気になじめず、ひととき目立つ宇宙船のような建築があらわれた。

東大門運動場跡地に、2014年3月に誕生したザハ・ハディッド氏設計のソウルの新ランドマーク「東大門デザインプラザ」。3次元の立体設計技法を駆使して設計された非線形的な建築デザインが特徴で、ライトアップされる夜には近未来的な様相に一層磨きがかかる。

昼間に到着してまず目を引いたの

はその圧倒的な形態であった。流線形の形態とファサードのパンチングメタルの板の仕上げは、自分がSFの世界に飛び込んだかのような印象を受けた。建築内部も同様で流れるような動線（流れすぎて歩き疲れたのはいい体験）・非線形的な壁のような屋根、屋根のような壁など自由な造形である。しかし、奥に進むと今度は圧倒的なスケール感に隠されていたオープンスペースが現れた。巨大なヴォイドのように圧倒的「抜け感」を感じる場所で、周りはず・韓国のように露店が立ち並んで

いた。コの字型のような大きなベンチには若者が寝そべり、広大な芝生にはおじいさんが座って本を読むなど、人々が思い思いの時間を過ごしている。

夜になるとまた違った顔を見せる。パンチングメタルを通してファサードが不規則に光り始めるのだ。今にも飛び立ちそうな「宇宙船」である。地下鉄2・4番線ともに駅直結という大変恵まれた立地からか、仕事帰りのサラリーマンやライトアップされたDDPを見に訪れるカップル、お酒を飲みながら話し込

む若者などが見受けられ、24時間365日眠らない不夜城のようであった。

流線的な形態は韓国を流れる川のように、流れに逆らわず繋がっていた。漢江が韓国の人々を助け、ともに生きてきたように、DDPもまた文化・情報の発信地として広く親しまれていくのだろう、と甘ったるいコーヒーを飲みながらコの字型のベンチに座り考えた。

(かなまる・げんた)

Photo Collections



正面
田中



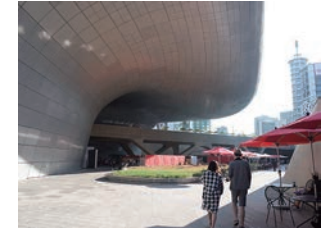
心地よい人工地盤
加登



背後に東大門
池永



夜のデザインプラザ
伊藤



インフラ、ランドスケープ、そして天空
清山



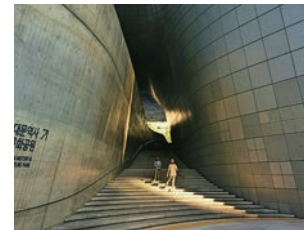
外縁の歩道までひろがる菱形の舗装
山口



野鳥の留まりしろ
久保田



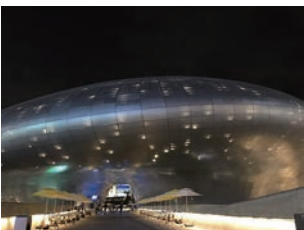
spiral
吹抜



メロドラマ
山本



屋上庭園
上澤



エントランス
伊藤



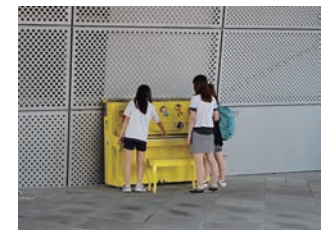
これぞベストショット
潮田



この傾斜が良い
角谷



橋の下でコンテナ
作田



東大門のBGM
原

Cheong Gye Cheon 清 溪 川

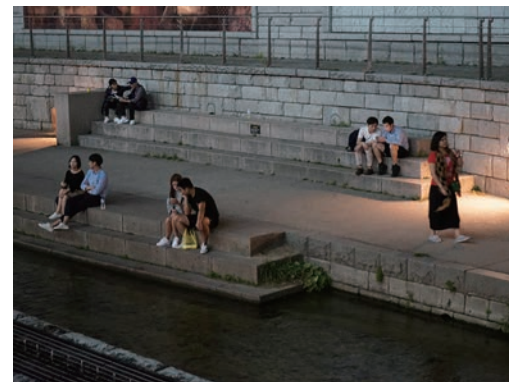
DATA

Keywords : 川、広場、パブリックスペース

Since : 1400 年くらい

Address : ソウル市内の約 10.92km

(再生されたのは、その内 5.8km)



工業社会では物質的な豊かさをもたらし、様々な技術的可能性をもたらした。一方、工業社会は個人の経済的豊かさを追求してきたため、かつてない規模で社会的な変動や摩擦が生じており、多様な人々との交流を促す生活の場が消失してしまった [1]。したがって、工業社会から知識社会へと移行している現在、人間の豊かな生活という観点から、日常生活の場を再生する必要がある [2]。そのためには、地域の資源を適切に把握して、その資源を漸進的に養育することが重要である [3]。

しかし、地域の資源は、一部の人々に忘れ去られて、長い歴史の中で資産と見なされなくなってしまっていることが多い。その地域の資源を引き出して、多様な人々との交流を促す日常生活の場として再生していくことは、どの都市にも共通する課題であろう。

その再生に成功した事例の 1 つが、韓国の清溪川復元計画である。清溪川は、600 年前に国都が建設された際、風水学上重要な流れとして庶民の生活の場として親しまれていた。しかし、1958 年から約 20 年間、

経済発展のために覆蓋工事と清溪高速高架道路の建設が行われた結果、環境悪化、歴史的文化の衰退などが発生して、多くのソウル市民に忘れ去られてしまった。その清溪川を再生したのは、2002 年～2006 年までソウル市長を務めた李明博氏であった [4]。

この計画が成功したのは、清溪川が長い歴史の中で都市軸として機能しており、市民や企業などが関わるだけの素地があったためであろう。実際に清溪川を訪れてみると、会社から帰宅する社会人や、河川敷で話

し込む若者たちなど、昼夜問わず多くの人の生活の場として機能していた。

(かとう・はるか)

- [1] 宇沢弘文：社会的共通資本，岩波新書，2000
- [2] 神野直彦：地域再生の経済学 豊かさを問い直す，中公新書，2002
- [3] ロバート・グラッツ（林泰義監訳）：都市再生，晶文社，1993
- [4] 馬渡龍、南潤、菅原隆：ソウル・清溪川復元事業にみる都市戦略について，八戸工業高等専門学校紀要第 47 号，2012

Photo Collections



夜
田中



清溪川①
加登



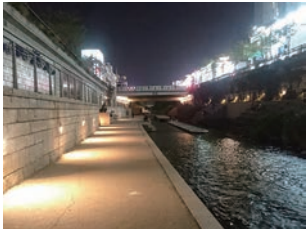
清溪川②
加登



清溪川③
加登



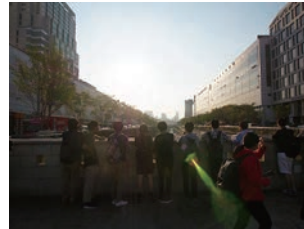
夕方の方はまばら
伊藤



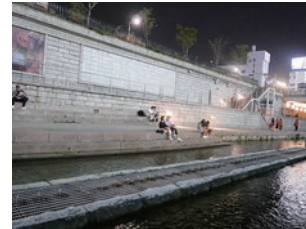
人の集まるあたりは水深1尺程度
山口



両側の違い
金丸



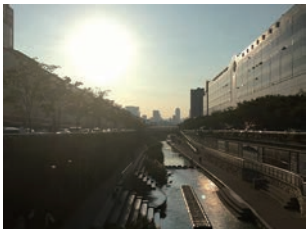
夕陽
久保田



ソウルの鴨川
吹抜



ライトアップがおしゃれ
上澤



黄昏る為の場
伊藤



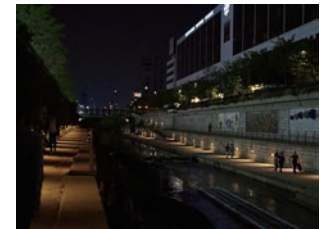
THE 一点透視
潮田



川と市場
角谷



憩える川沿い
作田



東大門の帰り道
原

DongDaemun Marketplace 東大門市場

DATA

Keywords：小売市場、卸売市場、屋台
※東大門市場は広蔵市場、芳山市場、
DDP 周辺の大規模商業ビル群の総称



東大門は夜こそ活気付く。東大門デザインプラザがライトアップし周囲のビルとともに近未来的な様相を呈する頃、歩道には衣服、食べ物などの屋台が溢れ出す。清溪川を渡ると百年の歴史を持つ広蔵市場が今でも賑わいを見せる。これらを総称し「東大門市場」という。

20 世紀前半、東大門市場は御用市場からアパレル卸売市場に発展した。戦後には工場と店舗を兼ねた露店が現れ、国内の既製服普及とともに市場は成長したが、所得向上による高級志向などから低迷期を迎え

る。そんな東大門市場が再び活性化したのは 1990 年代、品揃えを若年層の女性向け中心に転換したことで業績は伸び、現在の東大門市場に至る。

深夜まで多くの店が営業しているのが東大門市場の大きな特徴である。これは地方から卸売市場に買い付けに来る業者が夜から朝にかけて市場にやってきていたためである。市場の入り口には買い付けた商品を大量に積むために改造されたバイクがずらりと並んでいる。商品は道路まで広げられて販売されるが、飲食

店街ではそれに加えアーケードの真下に屋台が並んでいる。そのため行き交う人々と、屋台でチヂミやユッケを堪能する人々で通りはごった返している。

ファッションビルも深夜まで営業しており、その一つであるミリオレというビルの男性服コーナーでは着くや否や壮絶な客引きの嵐に見舞われる。最初こそ韓国語だが、彼らはすぐに我々が日本人だということに気がつき、日本語で話しかけてくる。なぜ日本人だとばれるのかは不明だ。ビルの中には深夜営業を行っ

ていないものもあるが、そのようなビルの前には大量の屋台がひしめいている。

東大門市場で感じたのは、ここで生きる人々の商魂のたくましさである。この溢れんばかりのエネルギーは 90 年代の市場の低迷からの復活の勢いなのであろうか。ザハの現代建築のダイナミズムと活気溢れる商魂のダイナミズムが拮抗し、東大門の夜の都市風景をつくり出しているように思えた。(くばた・たかよし)

【参考】金珍淑：韓国の東大門アパレル市場の特質 産業集積および商業集

積の有機結合を事例として、流通研究 Vol.7 No.1,2004,p65-80

Photo Collections



ご飯を食べるひとたち
田中



豚の腸詰と豚足
加登



昼の市場
伊藤



ユッケ
池永



店のなかがすべて街路にある
(逆に店内にはなにがある?)
清山



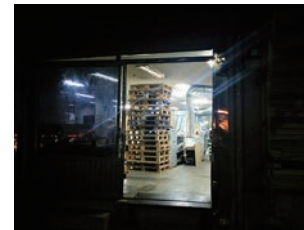
狭い歩行者空間に突抜ける電柱
山口



生肉
金丸



お疲れ様です
吹抜



マーケット近く、夜中も働く印刷会社
山本



服の小売店が並ぶ
上澤



市場はずれのローカル感
伊藤



国旗をかけたリライトを吊るしたり
トイレットペーパーを吊るしたり
潮田



グルメツアー1軒目
角谷



アーケードの中央
作田



商売は大変
原

DAY2



Ihwa Mural Village 梨花洞壁画村

DATA

Keywords : 村・町おこし、壁画、観光

Since: 2006

Address: ソウル市 鍾路区 梨花洞



カラフルな壁画や大小さまざまな立体作品が散らばる急勾配の町。路上美術館の呼び名は伊達ではなく、歩きつつうつる景色のそこかしこに、アート作品が顔を覗かす。この町が梨花洞壁画村（イファドンピョッカマウル）という今の姿になる契機は、2006年にソウルの公共プロジェクト「ART in CITY」の対象地とされたことであり、町中の壁画は、ロケスポットや観光地と成り、いわゆる集客力を、梨花洞に与えた。

壁画村の現在は、そこからまた、

違う一步を踏み出している。町中に現れるものはアートばかりではない。剥がされた壁画の跡、そして、壁に直接書かれた赤いハングル文字。それらは、この町が環境が変わってしまったことへの住民の訴えであるらしい。今回、その現在を踏まえ、町を歩いたわけであるが、もしハングルが読めたならば、また違う様に景色が映ったのだろう、と思う。

既に少し触れたが、梨花洞は勾配の非常にきつい町である。急勾配の坂や階段によって構成されざるを得ない地域のことを、月に届きそうな

ほど高い場所にあるということから、韓国では「月の街（タルトンネ）」と呼ぶことがある。どこか美しい和訳とは裏腹に、それは厳しい生活環境の下にある町という意味であり、梨花洞もその1つであった。

勾配のある土地柄なので、眼下に広がる、遠く見渡せる景色は、気持ちよかった。しかし、‘タルトンネ’と呼ばれる町であったことから勘ぐると、この景色は、都市化していく市街地と、なかなか整備が進まない町、という対比を感じさせることもあるのかもしれない。

町中にあるアートに惑わされることなど決してない、道の勾配のきつさ。表面がどれだけ変わろうと、変化しない町の構造。ここで見たアート作品の振る舞いや、書き殴られたようなハングル文字の緊張感、見晴らしのよい景色、住宅の佇まい。それらは、この勾配の体験——目標を仰ぐ首の角度、ふとももや足の裏の痛み、座った時のそれらの緩和、それから、コーヒーやソフトクリームが疲れた身体に染みること——に結びつきながら、思い出される。

（やまぐち・なおと）

Photo Collections



カラフルなイラスト
田中



住民の怒号
加登



お店の並ぶストリート
伊藤



居住者の「怒り」弱
池永



居住者の「怒り」？
清山



消された壁画
金丸



アイドル犬に群がる人々
久保田



「アート」と「声」
吹抜



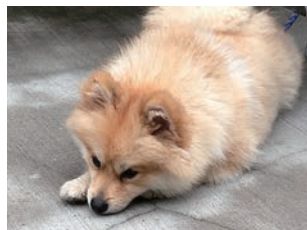
筋肉公園
山本



ポップなウサギ
上澤



壁画村のアイコン的アート
伊藤



出会ったポメラニアン
潮田



眺めのよい東屋
角谷



降りたくなる脇道
作田



統一感
原

Changdeokgung 昌徳宮

DATA

Keywords : 離宮、李氏朝鮮王朝、庭園
since : 1405 (1623 年に再建)
ユネスコ世界文化遺産



昌徳宮(チャンドックン)は私たちが2日目の昼に訪れた観光地だ。天気はあいにくの雨であったが、傘を差しながらでも深く引き込まれるだけの魅力がそこにはあった。

1405年にソウルの五大古宮である景福宮(キョンボックン)の離宮として建造された昌徳宮は朝鮮の王が暮らしながらにして国政を行う場所として造られたが、1592年の文禄の役により焼失しているの、今の昌徳宮は1623年に再建されたものとなる。

韓国の歴史的建造物ではあるが、

どこことなく見覚えのある敦化門(トンファムン)や中心となる仁政殿(インジョンジョン)からは江戸幕府の徳川家康が祭られている日光東照宮(1617年)のような極彩色の彩色を彷彿とさせる佇まいだ。戦役で対立していたとはいえ日本との関わりがあった朝鮮で、建造も同年代ということから宮殿建築としての技術的な関係が少なからずあったのではないかと思う。

中でも私が好きなのは柱から燃えいずる炎のような組物彫刻で、陰陽五行に基づいた色である青、赤、黄、

白、黒が基本として使用される伝統的な彩色で彩られており、このような彩色を丹青(タンチョン)というらしい。

大造殿の隅棟の雑像(チャプサン)も装飾として目の引くところであり、三蔵法師玄奘の一行を表した魔よけと言われているが、数は場所によって違うらしく、韓国は必ず奇数、台湾は必ず偶数。そして数が多いほど良いらしい。瓦を作る職人とは別に雑像だけをつくる職人もいたことより力の入れようが分かる。

広大な敷地にも驚かされた。私た

ちが1時間かけて探索したのは現存する昌徳宮の3分の1程度でしかなく、後苑は緑豊かな道と風情のある池や落ち着いた雰囲気のある東屋などがある。綺麗に手入れされた松の木を眺めながら歩いていると楽善齋(ナクソンジェ)と呼ばれる建物が目についた。先ほど見た仁政殿に対して派手な装飾は用いられておらず、漆喰と煉瓦で防火も意識しておりオンドルの煙突もあることからかなり生活感を感じられた。時間が許せばもっとゆっくり散策したかったと思う。(かみさわ・けんと)

Photo Collections



タクシー待ち
田中



狂気的な装飾
加登



かわいい雨樋
伊藤



観光客
池永



ただただ、広い。
都市の中で圧倒的な抜け感
清山



雨の調べ
山口



ごちゃごちゃ
金丸



たくさん乗っている
久保田



オンドルの煙突
吹抜



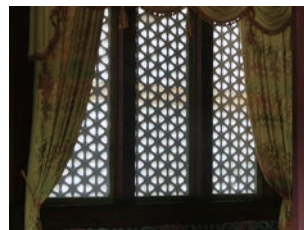
何手？
山本



戦士たちの休息
伊藤



これでもかという垂木の数
潮田



内側から見た韓国障子
角谷



祭事の壇
作田



何か出てきそう
原

Bukchon Hanok Village 北村韓屋村

DATA

Keywords : 伝統家屋密集地域、保存、リノベーション、屋根、坂、
since: 朝鮮時代から



景福宮と昌徳宮の間に位置する北村(ブッチョン)は朝鮮王朝時代から官僚中心の居住地として発展するが、1900年代初頭から始まる農村からの人口流入により、さらなる住宅大量建設の要請を受けることとなる。中大型の敷地は分割され、内庭(マダン)を持つ伝統的な韓国の民家「韓屋」の平面形状を簡略・標準化したコの字型またはL字型の平面を持つ住宅が高密度で建つことになる。こうした住宅は伝統的な韓屋と区別され、「都市型韓屋(ハノック)」と呼ばれる。

現在の北村の姿は各時代での都市型韓屋保全施策の結果である。1980年代から展開される合意を欠いた当初の保全施策が住民の反発を招き、その後の大幅な規制緩和によって多くの韓屋が取り壊されマンションが建てられる等、北村の景観や住環境は悪化した。これに危機感を持った住民の動きを契機に、2000年ごろから民官協働のまちづくりが始められ、居住者が韓屋を登録することで補修・改修の費用等へのインセンティブを受けることができる「韓屋登録制」の導入に至る。

まちを歩くと、街路に向ける外壁の表情は、例えば瓦を埋め込む、貝殻で飾ってみる等様々であり、それによりまち全体の雰囲気柔らかく感じられる(左写真)。観光客向けの韓屋体験館やチマチョゴリを着付けてくれるお店、建築家の住宅兼設計事務所など、住宅以外の用途も様々である。

「韓屋登録制」は規制力の小さい施策であるため、例えば看板建築的な韓屋等、様々な「作為」にも繋がってしまう(右写真)が、それは一方でこのまちが博物館ではなく、居住

者がそれぞれの暮らしをリアルに展開する「生きたまち」である証とも言える。「作為」を短絡的に規制するのではなく、その許容範囲について柔軟性を持って議論し、現代・未来のまちの姿を探求する姿勢が、都市を計画する者には求められる。

高台から見下ろす北村都市型韓屋群の屋根の一つ一つが、このまちに尽力した人々の努力の具現であろう(DAY2 扉ページ参照)。圧倒される風景である。

(きよやま・ようへい)

Photo Collections



町並みとチマチョゴリで観光する人達
田中



設計事務所での対談
加登



看板建築
伊藤



屋根
池永



雨を受ける屋根のかたち
山口



連なる屋根
金丸



屋根がある街
久保田



瓦と屋上
吹抜



しーっ、静かにしてください。
山本



おしゃれな外壁
上澤



札を貼られた門
伊藤



韓屋住居の前にいた蛙
潮田



大きく反り返る屋根
角谷



レンガ基礎
作田



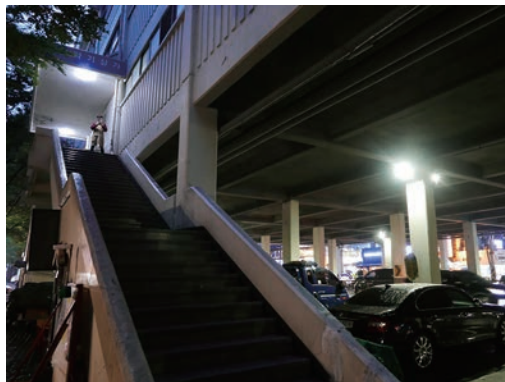
水も滴る
原

Insa-dong and its neighbours 仁寺洞とその周辺

DATA

Keywords：繁華街、商店街、現代美術館、リノベーション、看板建築

Address：ソウル特別市 鍾路区



□楽園楽器商街

もともと楽器街として有名だったが1960年代のロック音楽の勃興に伴い商店数が増加。もともとは服飾店なども混在する地区だったが、80年代以降地区の様相は楽器店の集積地帯と化し、1982年の夜間外出禁止令の解除などもありナイトカルチャーの中心地としての役割を担うようにもなった。現在でも韓国のポップ音楽文化の中心地として機能している。

街路の真上に被さるように建築物を立てており、日本で(同じく道

路上に建築されている)虎ノ門ヒルズが実現するより遥か前にこのような建物が実現している点が印象的であった。ソウルは高層アパートなど多い土地柄であり、少ない土地をどのように使っていくかの工夫がよく凝らされている場所であると思った。

□仁寺洞

古くは朝鮮王朝の貴族階級だった両班の屋敷の立ち並ぶエリアだったが、両班階級の没落に伴い彼らが骨董品を売り出すことをはじめ、骨董品売買の街として有名になった。

滞在時間が夜だったこともあり、雰囲気としては骨董街よりも若者の集まる繁華街という印象を受けた。角地のアイスクリーム店でアイスを買う高校生の姿などが見受けられた。

□国立現代美術館ソウル館

日本統治時代に建てられたが韓国軍の病院としての使用を経て現在美術館にリノベーションされている。古い建造物をファサードとして生かす一方で、美術館機能を満たすために旧来の建物の裏に現代建築が建てられている。

リノベーションして美術館として再生させることは日本でもよく見られるが、特に印象的だったのは目の前の街路から続く中庭を利用して若手芸術家の作った作品を展示している点であった。通りから見える旧来のファサードだけでは美術館と分かりづらい点をうまく補い、人々を美術館に引き入れている点が印象に残った。

(ふきぬぎ・しょうへい)

参考: <http://enakwon.com/main/about?lang=en>

<http://www.mmca.go.kr/>

Photo Collections



夕方の繁華街
田中



街路
加登



潜水艦のオブジェ
伊藤



なんなんだこれは！
池永



ハングルでかろうじて韓国と分かる
清山



崖の上まで続いているような
山口



改修 800 万
金丸



著作権だいじょうぶ？
金丸



ハリボテ韓屋
久保田



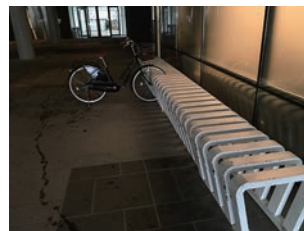
ビルの足元
吹抜



螺旋のショッピングモール
上澤



厚さ 30 センチのおとぎの国
伊藤



ベンチにも自転車置きにも
潮田



モールの入り口
角谷



雨宿り
原

DAY3



Songpa District 松坡区

DATA

Keywords: 団地・集合住宅、オリンピック会場

Since : 1988 ?

Address : ソウル特別市 破波区 新川洞



自分の研究的関心が住宅団地にある、ということで、韓国でも団地を見ることを楽しみの一つとしていた。

ソウルに到着後、空港から中心部へ向かうバスからの景色の中に早速、大型マンション群が多数みられた。ソウルにおいても、集合住宅が住民の重要な住まいの選択肢の一つであると思われる。外観はマンション群毎に統一感があり、ベランダはないものが多い。各住戸の生活感の外に出ていないため、住民の生活の様子を伺うことは難しかった。

ゼミ旅行3日目には、松坡区の集合住宅を見学。松坡区のマンション群の中をゼミメンバーの団体で歩いていたら、すぐに警備員と思われる人から外に出るように促され（たように思う。韓国語だったので正確には分からないが）、セキュリティが管理されていることが分かった。時間的な制限もあり、見学出来た場所には限りがあったが、マンションには高級感があり、非常に手入れがなされた状態の中庭も見られた。空間構成をみると、最寄り地下鉄駅の出入り口がある主要道路沿いに、

ショッピングセンターなどの商業施設が並び、更にその奥に住宅棟が立ち並び、住宅棟の中心には学校が配置されている。また、主要道路を挟んで向かいの区画には、中々の規模の商店街が形成されていた。食品や日用品を扱った店がずらりと並び、活気に満ちている。団地の住民も利用しているのかもしれない。

団地を歩いていると、団地建設の背景は何なのか、どんな社会層の人が住んでいるのか、近隣地域との関係性はどうなのか、住民同士の関わりはどれくらいあるのか、生活圏はど

の辺りなのか、共同スペースの管理はどのようになされているのか…等々、住民の日常生活について色々知りたくなる。団地は、ガイドブックに載っている観光地とは違う、その国の人々のリアルな日常生活に触れることが出来る場所だと思う。今後も様々な旅先で、まちの住民になった気分で、団地を歩いてみたいと思っている。

（※団地を見学する際は、住民の方に迷惑をかけたり、不審に思われたりしないよう配慮しましょう）

（たなか・ゆの）

Photo Collections



憩いの場
伊藤



封鎖された公園
池永



団地の日常
清山



足元にはごちゃっと繁華街が広がる
山口



奥にある緑
金丸



ゲートからは子供達が
勢いよく飛び出す
久保田



空へと伸びる
吹抜



低気圧、ラスボス感
山本



オリンピック道路
上澤



高層階の引越しは梯子車で
伊藤



負けじと木も高い
潮田



かなり手の込んだ緑地
角谷



団地内緑地
作田



女子高生
原



別行動で本屋に行きました
神吉・加登

韓国訪問を振り返って

神吉紀世子

尹孝鎮先生が、京大建築の博士後期課程編入学のために来日されたのは確か神吉が M1 の頃、1989 年。あっという間に日本語上達され修士の院生みなととても仲良く大学院生活を楽しんだ。たしか田中樋ノ口町のどこかであったはずが、サムゲタン (Wiki によれば、「鶏肉と高麗人参、鹿茸、ファンギなどの漢方ともち米、くるみ、松の実、ニンニクなどを入れて煮込んだ料理である。薬膳料理や補身料理 (ボシ料理・滋養食) ともされている」なる料理、大きな鶏肉がゴロっと入っていてとてもおいしく体温まる。) がリーズナブルな価格で食べられる食堂を探してきて下さり、皆ででかけたのを覚えている。ちょうど、バブル崩壊の瞬間とその後、京都のまちなかでは、町家が高い容積率指定を活用する高層建物に建て替わる傾向はまだまだ続いていたが、一方、町家を残す、暮らしと文化を持続的発展させることに活躍される今につながる様々な組織や人が力強く動いておられた。尹先生自身は、まだ再評価されていないソウルの都市型韓

屋を「古い老朽ストック」ではなくて歴史都市における高密度居住のための優れた家屋遺産群として研究されていたが、それは京都での活動と平行であった。今回も、とても久しぶりにお目にかかってソウル市内を案内いただいた。とりわけ、韓屋の住まい手による修理・改修を支援する韓屋委員会で 1 つ 1 つの事例に関わりその内情をよく知って教えて下さるのはとても勉強になった。なかでも「この〇〇さんは論客で厳しいリーダー」「京都でいう吉田孝次郎さんのような?」「吉田孝次郎さんもよく来られて私より詳しい」という会話がすぐに成り立つのが先生の D 論の対象 2 地区が今もシンクロしているかのようなのであった。そして何より、晩ごはんツアーの充実ぶりは、京都での 27 年前が蘇るよう。院生時代の各国の友人とのつながりは本当に有り難いもの。今回もしみじみをそのことに感謝するのであった。

(かんき・きよこ)

神吉研究室調査旅行 in Seoul

2016年 11月発行

[編著]

神吉研究室

[企画・編集]

金丸厳太

久保田匠慶

吹抜祥平

山本雄志

[旅行参加者]

神吉紀世子 田中由乃

加登遼 山口直人

清山陽平 伊藤祥之

池永諒 金丸厳太

久保田匠慶 吹抜祥平

山本雄志 上澤賢人

伊藤純一 角谷遊野

潮田紘樹 作田隆之

原泉

[Special Thanks]

尹孝鎮 教授

長谷川 直子 様

太田 裕通 様



